Table 1-1 規格比較判断記号の一覧及び指針

相切西	H	~"].	の地	旧本亡
現役と見	H	· ~	01+1	IФЛ

記号	判断
0	3つ以上のデータがあり、70%以上のデータが規格に合致する場合
OK	Oでかつ幅が厳しすぎる(狭すぎる)(規格幅が指針の1/2以下)場合
OW	Oでかつ屈折率あるいは比重の規格幅が 0.020 以上の場合
OY	O でかつ、含量は小数点第1位を四捨五入して下限値になるデータが1/3以上、屈折
	率・比重は小数点第4位を四捨五入して1/3以上のデータと上限値もしくは下限値と
	の差が 0.001 未満の場合
Δ	2 データしかないが規格に合致している場合:酸価は1 データでも規格に合致してい
	る場合
Х	3つ以上のデータがあるが、規格と合致せず、規格を設定できなかった場合
XO	3つ以上のデータがあり、規格に問題があるが、実測データより規格案が設定できた
	もの
\mathbf{S}	規格に幅がなく(1点データ)、かつ3つ以上のデータがあるが、規格設定ができな
	かったもの
SO	規格は1点規格だが、3つ以上のデータより規格案が設定できたもの
F	指針から規格設定が不要と考えられるもの
ND	酸価以外の項目でデータ数が2つ以上なかった場合

44 A MA	6/200
XX - +	
	121.71

까다 더 구가면서	
記号	判断
ND	十分なデータが得られなかったもの
Х	JECFA 規格に問題があり、現時点では規格案の設定ができないもの
XO	JECFA 規格に問題があるが、実測データより規格案が設定できたもの
SO	JECFA 規格は1点規格だが、実測データより規格案が設定できたもの
XΔ	いずれかの項目のデータ数が2個で酸価が不要の場合
OK	JECFA 規格に合致しているが厳しすぎる(狭すぎる)ため変更した方が良いもの
OY	JECFA 規格の上限値もしくは下限値ぎりぎりのため変更した方が良いもの
OW	JECFA 規格に合致しているが JECFA 規格が広すぎるため変更した方が良いもの
Δ	データ数が2つだがJECFA規格に問題がないと判断されたもの
0	JECFA 規格に問題ないと判断されたもの

複数の個別判断となった場合は、上位を採用するとした。

指針:規格を設定・変更する場合の原則として、以下の指針を作成した。

- 1. 融点が20℃以上30℃未満の場合-凝固点を設定し、屈折率・比重は設定しない
- 2. 融点が 30℃以上の場合-融点を設定し、屈折率・比重は設定しない
- 3. 屈折率・比重の幅-含量が 97%以上の場合: 0.006、含量が 97%未満の場合: 0.010
- 4. 融点・凝固点の幅 ^ 含量が単品で 95%以上の場合:4℃それ以外:6℃以上
- 5. 酸価:アルデヒド類、エステル類以外は不要
- 6. 旋光度:品目名が光学活性体ではないものは不要

食品添加物名	食品向け出荷量 (申告値)(t)		使用査定量 考察値(t)	摂取量(t)
塩酸	177,834	$^{\sim}$	100,000	-
二酸化炭素	160,426	=	160,426	19,144
酢酸デンプン	142,432	=	142,432	113,946
次亜塩素酸ナトリウム	107,562	>	200	-
L-グルタミン酸ナトリウム	103,070	<	120,000	96,000
水酸化ナトリウム	68,265	>	68,000	-
D-ソルビトール	54,580	<	76,040	51,710
ヒドロキシプロピル化リン酸 架橋デンプン	47,878	=	47,878	38,302
リン酸架橋デンプン	37,389	=	37,389	29,911
酸化デンプン	26,911	=	26,911	21,529

Table 1-2 申告値集計上位10品目添加物の使用査定量と摂取量計算の対比例(第11回分)

Table 4-1 JECFA 各条規格で MS を用いる試験を適用している添加物品目

JECFA添加物品目名	JECFA Monograph	収載項目	質量分析計 使用試験	質量分析計 使用機器	日本語名	第9版食品 添加物公 定書収載	公定書内試験
Ethyl Hydroxyethyl Cellulose	Monograph 1 (2006)	PURITY TESTS	Ethylene oxide, dioxane, ethylene chlorohydrin	head space gas chromatography with mass selective detection (GC-MSD)	エチルヒドロ キシエチルセ ルロース	-	-
Hydroxypropylmethyl cellulose	Monograph 11 (2011)	PURITY TESTS	Propylene chlorohydrins	Gas Chromatography–Mass Spectrometry (GC-MS) (Vol. 4)	ヒドロキシプ ロピルメチル セルロース	0	純度試験 (塩化物試 験)
Propylene Glycol Esters of Fatty Acids	Monograph 1 (2006)	METHOD OF ASSAY	Identification:Identify peaks by comparison of retention time with known substances or apply coupled GC/MS	GC-MS	プロピレング リコール脂肪 酸エステル	0	確認試験 (TLC)
Rosemary Extract (<u>Tentative</u>)	Monograph 19 (2016)	IDENTITY TESTS	Antioxidant/Reference Volatiles Ratio	Reference Volatile Ratio: Total % w/w of (·)-borneol, (·)-bornyl acetate, (·)-camphor, 1,8- Cineole (eucalyptol) and verbenone is determined using GC-MSD	ローズマリー 抽出物	-	-
Steviol Glycosides From <i>Stevia Rebaudian</i> a Bertoni	Monograph 20 (2017)	METHOD OF ASSAY	Method B: Determination of Minor Steviol Glycosides by HPLC-MS	HPLC-MS	ステビオール 配糖体	0	HPLC-UV

Table 4-2 SIM モード測定時の検出イオン条件

検出イオン	保持時間	目的化合物
(<i>m/z</i>)	(分)	
43, 71, 114	3.0-3.5	4-Heptanon
43, 139, 154	5.0-6.5	Eucalyptol
95, 107, 110,	8.0-11.0	(-)-Camphor
135, 152		(-)-Borneol
		Verbenone
95, 154, 196	11.0-13.0	(-)-Bornyl acetate

Table 4.0 DINI L 「例に向 V限山1 A V 不」	Table 4-3	ード測定時の検出イオン条	SIMモー	Table 4-3
-----------------------------------	-----------	--------------	-------	-----------

検出	イオン	検出時間	目的化合物	保持時間
(<i>n</i>	n/z)	(分)		(分)
定量用	定性用	-		
79	81	$3.0 \sim 9.8$	1-Chloro-2-propanol	9.1
58	31	9.8~11.0	2-Chloro-1-propanol	10.0
116	98	$11.0 \sim 15.0$	o -Xylene- d_{10}	14.1

Table 4-4 添加回収率測定結果

	添加回収率				
	1C2P	2C1P			
	(%)	(%)			
n-1	82.0	78.6			
n-2	80.5	84.6			
n-3	84.0	86.7			
n-4	82.0	83.0			
n-5	87.8	91.6			
n-6	87.8	90.2			
Ave.	84.0	85.8			
RSD (%)	3.76	5.59			

Table 4-5 GC-MS を用いた PCHs 量分析法の妥当性評価結果

Table 4-5	GC-MS を用いた P	CHS 重分析法(り妥当性評価結	朱
	定量値	併行精度	室内精度	判定
	(AV, mg/kg)	(RSD%)	(RSD%)	
1C2P	0.640	1.77	4.22	適
2C1P	0.217	2.80	4.74	適



Fig. 4-1 ローズマリー抽出物の GC/MS クロマトグラム(TIC)。(A) THF のみ、(B) B1、(C) A2、(D) A1。ピーク 1: eucalyptol、ピーク 2: (-)-camphor、ピーク 3: (-)-borneol、 ピーク 4: verbenone、ピーク 5: (-)-bornyl acetate。



Fig. 4-2 各化合物の定量用イオンのピーク形状(対称度)。ピークは各化合物の濃度 が 20 µg/mL となるように調製した時のもの。(A) 4-Heptanol、(B) eucalyptol、(C) camphor、(D) borneol、(E) verbenone、(F) bornyl acetate。各ピークの右上に、ベ ースライン付近を拡大表示している。



Fig. 4-3 GC/MS クロマトグラム

1) 検量線用 PCHs 標準液(200 ng/mL) (TIC)、2) ジエチルエーテル(SIM)、
 3) 検量線用 PCHs 標準液(25 ng/mL)(SIM)、4) 検量線用 PCHs 標準液(200 ng/mL)(SIM)

1:1C2P、2:2C1P、3: *o* xylene *d*¹⁰ (IS)、s: 溶媒由来































Fig. 5-8. ポリスチレン ZnSe プリズム (直線:1回反射 ATR、破線:5回反射 ATR)























Fig. 5-14. 酢酸フェネチル 1 回反射 ATR(直線:ダイヤモンドプリズム、破線:ZnSe プリズム)























Fig. 5-20. N-メチルアントラニル酸メチル (ZnSe プリズム、5 回反射 ATR (縦軸%T 表示))













Spiked level (µg/g)	Recovery (%)	RSD _r (%)	$\operatorname{RSD}_{\mathrm{ip}}$ (%)
1	92.3	3.2	6.4
2	94.3	3.1	6.5
4	90.9	2.1	2.1

Table 6-1 鉄共沈法を用いた塩化カリウム中の鉛抽出法を用いた添加回収試験

Table 6-2 鉄共沈法を用いた塩化カリウム中のヒ素抽出法を用いた添加回収試験

Spiked level (µg/g)	Recovery (%)	RSD _r (%)	$\operatorname{RSD}_{\mathrm{ip}}$ (%)
1.5	76.0	3.2	6.7
3	87.2	1.5	4.3
6	86.5	2.1	4.3

Sample		Spike level (µg/g)	Recovery (%)	RSD (%)
Potassium nitrate	Pb As	2 3	91.4 82.9	1.6 2.6
Sodium nitrate	Pb As	$\frac{2}{3}$	88.9 79.9	$3.1 \\ 2.9$
Ammonium chloride	Pb As	$\frac{2}{3}$	91.7 82.0	2.9 4.2
Sodium sulfonate*	Pb As	$\frac{2}{3}$	91.0 83.2	2.7 2.2

Table 6-3 鉄共沈法を用いた食品添加物試料からのヒ素及び鉛抽出法を用いた 添加回収試験

Table 6-4 鉄共沈法による炭酸塩類の鉛及びヒ素の添加回収試験結果 (蒸発乾固後,水に溶解し鉄共沈法を実施)

	_	Recover	y (%)
		Pb	As
$NaHCO_3$	HNO ₃ (1→100)	91.7 ± 5.6	75.9 ± 2.9
	water	104.8 ± 7.2	80.7 ± 5.6
			mean±S.D (n=5)

	Recover	cy (%)
	Pb	As
$ m K_2 CO_3$	100.3 ± 5.8	78.8 ± 5.4
$\mathrm{NH}_4\mathrm{HCO}_3$	98.7 ± 7.4	76.8 ± 4.7
${ m Na}_2{ m CO}_3$	94.0 ± 3.7	75.6 ± 3.0
		mean±S.D (n=5)

Table 6-5	鉄共沈法による炭酸塩類の鉛及びヒ素の添加回収試験結果
	(蒸発乾固後,水に溶解し鉄共沈法を実施)

Table 6-6 鉄共沈法による食用赤色3号の鉛,ヒ素及び亜鉛の添加回収試験結果 (タール色素試験法鉛試験法第2法により試料液調製)

Food Red No.3		Recovery (%)	
	Pb	As	Zn
鉄共沈法	89.8 ± 2.7	72.3 ± 9.0	16.9 ± 1.4
キレート固相カートリッジ	-	-	83.5 ± 2.7
合計回収率	89.8 ± 2.7	72.3 ± 9.0	100.4 ± 1.2
			mean±S.D (n=3)



Fig. 6-1 鉄共沈法による鉛及びヒ素の精製



Fig. 6-2 鉄共沈法及びキレート固相カートリッジ法



Fig. 6-3 ICP-AESによる鉛及びヒ素(III)の検量線



Fig. 6-4 ICP-AESによるヒ素 (III) 及びヒ素 (V) の検量線



Fig. 6-5 キレート固相カートリッジによる塩化ナトリウムからの 鉛及びヒ素の抽出に対するpHの影響



Fig. 6-6 pH9における鉄共沈法による塩化ナトリウムからの 鉛及びヒ素の回収率への次亜塩素酸ナトリウム溶液の影響



 Fig. 6-7
 鉄共沈法による塩化カリウムからの 鉛及びヒ素の回収率へのpHの影響



次亜塩素酸ナトリウム溶液添加量 (µL)

Fig. 6-8 鉄共沈法における次亜塩素酸ナトリウム溶液の添加量の影響



Fig. 6-9 鉄共沈法による塩化ナトリウム(A)及び塩化カリウム(B)からの 鉛及びヒ素の回収率へのpHの影響



Fig. 6-10 鉄共沈法による塩化ナトリウム(A)及び塩化カリウム(B)からの 鉛及びヒ素の回収率への鉄添加量の影響



Fig. 6-11 鉄共沈法による塩化カリウムからの 鉛及びヒ素の回収率への鉄添加量の影響



Fig. 6-12 ICP-AES法による鉛及びヒ素の検量線における直線性の確認



Fig.6-13 ICP-AESによる鉛、ヒ素及び亜鉛の検量線



硝酸マグネシウム・エタノール溶 液に点火した様子



硫酸を加え 150~500℃で加熱



500℃で強熱した後の様子



予備灰化及び乾式灰化を 3回繰り返した後の様子

Fig. 6-14 食用赤色3号の灰化操作(タール色素試験法鉛試験法第2法)



Fig. 6-15 食用赤色3号の灰化後の様子 (タール色素試験法ヒ素試験法)